

平成30年 茨城県校友会新年総会

平成30年2月4日（日）水戸プラザホテルにて、茨城県校友会新年総会が開催されました。

今年はインフルエンザが猛威を振るい、当日になって多くの欠席者が出たため、例年になく寂しい新年総会となってしまいました。

総会是小澤一友副会長（63回）の司会進行で始まり、校歌斉唱、今井文彰副会長（61回）の開会の言葉の後、森永和男会長（59回）の挨拶がありました。挨拶の中で茨城県校友会会長、歯科医師会会長の立場から、若手の先生にも積極的に活動に参加してほしい旨の話がありました。自分自身も校友会活動を通じて、多くの先生方とお話する機会をもち、歯科だけでなく多くの勉強をさせていただきました。若い先生にもいろいろな経験をしてもらいたいと思います。

続いて来賓挨拶として近藤勝洪校友会本部長よりご挨拶をいただきました。

その中で印象に残ったのが「校友会と同窓会の違い」でした。「なぜうちの大学は校友会というのだろうか？」とずっと疑問に思っていたので、卒業して35年ぶりにその疑問が解けました。ありがとうございました。

その後、福島康彦会員（69回）を議長に選出し、議事に入りました。

<報告事項>

会務報告	小澤 一友 副会長
一般会員現況報告	鈴木 宏昭 常務理事
共済会計現況報告	小杉 厚 常務理事

<議事>

事業・一般会計決算案	鈴木 宏昭 常務理事
共済会計決算案	小杉 厚 常務理事
監査報告	若松 進治 監事



議事は滞りなく進み、上程された案はすべて可決されました。今井副会長の閉会の言葉で、総会は無事終了しました。

続いて、北島佳代子新潟生命歯学部歯科保存学第1講座准教授（74回）に「高齢化社会に多発する狭窄根管へのアプローチ～進化した根管治療の現状～」というテーマで講演いただきました。高齢者の根管治療の難しさをお話いただき、治療方法を丁寧に説明していただきました。高齢者の根管治療の難しさは毎日のように感じていたので、とても参考になりました。

また、冒頭学生の実習風景を見せていただきましたが、モニター、マイクロスコープなど我々の学生時代とは雲泥の差です。つくづく日々精進しなければと思いました。

講演会終了後、場所を移して懇親会になりました。若松進治会員（55回）の乾杯の発声で宴は幕を開け、歓談となりました。お酒が進み盛り上がったところ、これからの茨城県校友会を背負ってくれる若手の会員の司会進行で恒例のビンゴ大会になりました。番号が呼び上げられるたびにあちこちでどよめきが起こり、皆さん大きな箱、小さな箱を持ち帰っていかれました。

懇親会は盛会のうちに、黒澤俊夫副会長（64回）の締めめの言葉で閉会しました。

（星野浩伸・72回記）